

神のおとずれ

日本聖公会 神戸教区報



2020年
9月号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<http://www.nskk-kobe.org/>

発行責任者
司祭 上原 信幸

印刷所
文明堂印刷所

心を一つにして求めるなら

主教 オーガスチン 小林 尚明



九月六日、聖霊降臨後第十四主日の福音書は、マタイによる福音書十八章十五節から二十節です。聖書を見ますと「兄弟の忠告」となっています。「兄弟があなたに対して罪を犯したなら、行って二人だけのところで忠告しなさい。言うことを聞き入れたら、兄弟を得たことになる。」という言葉から始まります。

聞き入れてくれなければ、ほかに一人か二人を連れて行きなさい。それでもだめなら、「教会に申し出なさい」というのは、牧師さんや教会委員さん達と相談しなさい、ということでしょう。それくらい一人の人の問題をみんなの問題として考えなさい、と言うことです。その後、「教会の言うことも聞き入れられないら、その人を異邦人が徴税人と同様に見なさい。」というビツクリするような指示が書いてあります。要は、もう言うことを聞かないのだから罪人として無視しなさい、

と読んでしまいそうです。しかし、イエス様自身が「私に求めたのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためだ」と言われていますし、この箇所の直前に、「迷い出た羊」のたとえがあり、「これらの小さな者が一人でも滅びることは、あなたがたの天の父の御心ではない」とイエス様は言われています。そういう人だからこそ、もっと愛と忍耐、そして祈りをもって接しなさい、ということではないのでしょうか。そういう人は滅んでしまえばいい、というのはイエス様の御心ではないはずです。

「なぜなら」

その後、十九節に「どんな願い事であれ、あなたがたのうち二人が地上で心を一つにして求めるなら、わたしの天の父はそれをかなえてくださる。」という大きな約束があります。勿論、この約束を二人の泥棒が心を一つにして、盗みか上手くいきますように祈ったなら、上手くいくということはありません。どうして二人が心を一つにして求めるなら、父なる神様がかなえてくださるのか、というと、この後の二十節がその理由を説明しています。ギリシャ語では、「ガル(なぜなら)」という言葉が使われており、日本語に訳されていますが、「なぜなら、『二人または三人がわたしの名によって集まる場所には、わたしもその中にいるのである』という説明になっています。」

私たちがイエス様の名によって集まる時、イエス様が共にいてくださいます。そして、私たちが心を一つにして祈り合う時、イエス様が私たちの気づかなかったことや神様の御心を示してください、より父なる神様の御心に適う祈りに変えてくださいます。司祭時代、よく病院へお見舞いに行きました。帰る前、私がお祈りした後、すぐに入院しておられるご婦人のお連れ合いがお祈りされて、その後にご婦人のお祈りされる、という事がありました。祈っていくうちに、最初は、早く良くなって退院できますように、という祈りから、共に祈ることができる恵みや司祭の訪問への感謝、入院していても恵みを実感できる喜びへとお祈りが変化していき、心が一つになる経験を何度もしました。

現在、このような祈り方が忘れられているように思います。夫婦で聖書を読んで祈ってみる。小さなグループで何かの会の後に、祈り合ってみる。こうした経験が、祈りかなえられる確信を与えてくれます。二人または三人で心を一つにして祈ることを覚えたいと思います。

(神戸教区主教)

伝道教区と 宣教協働区について

今秋開催予定の日本聖公会総会に、主教会から教区制度に関わる議案が提出されます。それは「伝道教区」と「宣教協働区」という、新しい考え方についての議案です。

伝道教区とは、一言でいうと「教区主教を置かない教区」といえます。

近年、聖職数の減少という課題を各教区は抱えており、一人の司祭が複数の教会を司牧するのは常態化しています。また、教区内の現職邦人聖職が、十人に満たないケースも見受けられます。少ない自教区の聖職の中から教区主教を選出すること

は、更に司祭数を減らすことにつながります。しかし、他教区の主教や司祭から選出することは、他教区の困窮を招くことにもなります。

主教会ではこの問題について検討する部会を作り、種々の可能性について検討されました。

その結果、主教会では日本聖公会に、教区主教を戴かず管理主教のもとで運営される「伝道教区」という制度が考えられました。そしてその可否について、この総会に提案されることになったのです。かつて「伝道教区」は、宣教師による伝道が新しく始まり、将来的に「教区」に成長していく過程のものとして用い

られてきた言葉です。このかつてあった伝道教区という言葉を用いながら、新しく主教会の目標とされることは、下記のことであります。

一、日本聖公会の宣教体勢再編に向けて伝道教区制を導入し、将来的には、教区再編のためのステップとすること。

二、そのために、日本聖公会の十一教区を、三つほどの宣教協働区に分け、「協働委員会」を設置し、そのエリアで宣教協働を行うことです。

「教区再編」

日本聖公会では、「もっと少ない教区数に再編成してはどうか」という声が、昔からありました。

理由の一つには、海外聖公会の信徒・聖職数に比べ、日本は教区数が多いということ

です。そのため、実際に伝道教区

海外の一教会の信徒数よりも、日本聖公会の一教区の信徒数の方が少ないケースは、少なくありません。そのため、日本では少数の人手で教区機能の維持を行い、また先ほども述べましたが、少数の聖職の中から教区主教を選出する必要もあります。現在、大阪教区と京都教区では、合併を視野に入れた人事交流や、共同の委員会活動を行っています。

「宣教協働区」ただ、日本聖公会の各教区は、海外聖公会に比べて区域が広く、交通事情や経済文化圏などもあり、簡単に区分けをするわけにもいきません。教区の再編と、教区間協働の話題は、起こっては消え、再開しては立ち止まるということの繰り返しでした。

しかし、これからの三年間には、毎年教区主教が退職年齢に達し、今後五、六年で大半の教区が主教選挙を迎えます。そのような背景をもって、伝道教区制と宣教協働区の設定が、今回の総会議案として提出されるに至っています。

司祭 上原 信幸
(二〇二〇年管区総会代議員)

オーガスチンの まなざし



主教 小林 尚明

『宣教アンケート』

六月中旬、教区宣教委員
会から各教会に対してアン
ケートが出されました。こ
れは教区宣教一四〇年だっ
た二〇一六年に各教会が報
告してくださった宣教活動
報告の中の「三、未来に向け
て、これから行っていくた
い事」の評価と今後の打開策
をお尋ねするものです。七
月未までにお返事を頂き、
八月二十二日(土)の宣教委
員会で分かち合い、今後の
教区の宣教について考えて
いく基礎資料にしようとし
ています。どんなアンケー
トが返ってくるか、楽しみに
しています。

『神戸昇天教会巡回』

予定では、五月二十四日
に巡回するはずでしたが、
今回のコロナのことで延期
になっていました。七月十
二日、昇天教会では、礼拝
後、教会委員会もあり、宣
教アンケートの評価もされ
ると聞きましたので、巡回

しました。礼拝では説教を
担当し、教会委員会にも陪
席させていただきました。
昇天教会では、未来に向け
てこれから行っていくたい
事を、①信徒の信仰生活の
充実を目指す。それが人々
への証しとなり、「来てみま
せんか？」と人々を教会に誘
う原動力になる。②教会活
動の様々な分野において、
祈りをもって始める。③与
えられている賜物、恵みに
感謝し、それらを活かして
いく。と報告されていまし
た。

教会委員会で出た評価と
して、教会のホームページ
に力を入れてきた。それに
よりアクセス件数も予想以
上で、ホームページを見
て、教会に来られた方が毎
週のようにおられた、とい
う報告を喜びをもってお話
しくださる姿に、こちらの
方が励まされました。

信徒の皆さんが、日曜日
の礼拝に時間をかけて来ら
れ、陪餐のない礼拝を三十
分、お茶も出せずに帰って
いただく、「これでいいんだ
ろうか」という声も聞かせて
いただきました。

聖公会はこれから、一種
陪餐(パンだけ)になるので
すか、という質問がありま
した。伝統的に聖公会が大
切にしてきた二種陪餐(パン
とぶどう酒)を私も大切にし
ていきたいと考えています。

(神戸教区主教)

教会とICT コロナ禍の中で

ICTもしくはICTと言う
言葉が使われてから既に二十
年以上が経ちます。ITはイ
ンフォメーション・テクノロ
ジー、ICTはインフォメー
ション・コミュニケーション
ン・テクノロジーの略語で
す。それ以前は電子化とか
ペーパーレス化とか言われて
いたような気がします。

教会のICTについて、早
いところでは、八十年代には
教籍簿をパソコンで管理し
て、出席統計、家族別宛名ラ
ベル発行、月例レクイエム案
内の発送作業を行っている教
会がありました。

私もこのシステムを管理運
営していました。数百人(故
人も含む)と千人超えの規模
の大きな教会でしたから、こ
れらを手作業で行うのは大き
な負担であり、早急な電子
化・自動処理化が求められて
いました。必要に迫られる
と、ICT化は早く進みま
す。必要を感じないと、ICT
化はなかなか進みません。

ICTを活用してデジタル
化するには、三つの段階があ
ると考えられます。

始めはデジタル化、これは
単純に今までの紙ベースか
ら、ワード文書やエクセル
データ、PDF・メールにな
り、情報を伝達する方法が変
わっただけの状態です。今、
多くの教会がこの位置に
いると思われまます。

二つ目は、デジタル技術
を使って既存のスタイルを
変え、新しい価値(収益を含む)
を生み出す機会を提供する段
階です。教会にとってこれが
難しい事だと感じています。

教会にとって新しい価値を
生み出す必要があるのか?新
しいサービスを提供する必要
があるのか?ICT化しても
どんな意味があるのか。コロ
ナ禍で、徳島聖モテ教会は
双方向型のオンライン礼拝を
実施しました。「これなら、
いざれ教会に行けなくなっ
ても礼拝に与れる」「病院に
入院しても礼拝に与れる」な
どの感想が聞かれ新しい気
づきを与えられました。更に、
出張先から参加する信徒も
おられました。十分新しい
価値の提供が教会には求
められています。

三つ目はデジタルト
ランスフォーメーション。デ
ジタル技術を使い、仕事や
ビジネスそのもののあり方
を変えることを言います。
教会そのもののあり方を変
えることを行います。オン
ライン礼拝を行って気付く
事は、既存の慣習のまま
礼拝をしてもそれが必ず
しも喜ばれているとは限
らないことです。それは、
教会のあり方を再定義する
作業でもあります。集ま
って顔を合わせてコミュニ
ケーションを図る以外の
方法が求められています。

だ教会には新しい価値を生
み出すチャンスがあるとい
うことです。

そして三つ目はデジタル
トランスフォーメーション。
デジタル技術を使い、仕事
やビジネスそのもののあり
方を変えることを言います。
教会そのもののあり方を変
えることを行います。オン
ライン礼拝を行って気付く
事は、既存の慣習のまま
礼拝をしてもそれが必ず
しも喜ばれているとは限
らないことです。それは、
教会のあり方を再定義する
作業でもあります。集ま
って顔を合わせてコミュニ
ケーションを図る以外の
方法が求められています。

日本の教育の多くは、「イ
ンターネットは危ない」と
教えて来ましたが、とても
残念なことです。そのため
二十一世紀のICT化に何
周も遅れを取っています。
米国の聖公会のオンライ
ン礼拝を見ていると老若
男女、幼稚園児までオン
ライン礼拝で時間を共に
しています。新しい価値
の提供が教会には求め
られています。

(執事 宮田裕三・広報部)

鳩だより 《敬称略》

初 陪 餐

七月五日(日)

マグダラのマリヤ

松本真宙

ジョージ 松本健慎

明石聖マリア・マグダレン教会

ご 逝 去

七月十八日(土)

マリヤ 高田夫美

徳島インマヌエル教会

七月二十六日(日)

スザンナ 林七重

神戸聖ミカエル教会

危機管理意識

い気持ちを感じる方もいらつしやると思っています。

から何もしなくても大丈夫と考えてしまう人がいます。また、普段から礼拝出席者が少ない教会だと、人数が少ないから感染のリスクは低いと思

症)が残り、一生苦しみなから生きることもあり得るわけです。また、たとえ軽症であつても、患者が一人でも増えることは、医療のひっ迫に繋がることなのです。

三月末からのコロナ禍において、様々な教区・教会行事

患をお持ちの方や高齢者は重症化しやすく、若者は軽症で

考えってしまう方もいらつしやるかもしれません。

ここで危機管理意識がどの様に働くかによって、判断が

が中止・延期になってしまいました。

届いています。これだけを聞

際には苦しい症状が起こり、

に分かれます。先程述べた様に、「まあ大丈夫」と思っ

の安全を確保するためには、

と高齢者への配慮は必要であ

退院しても日常生活さえま

まえば、感染のリスクを自ら

仕方がないことですが、どこ

るが、若者は軽症で済むのだ

ならないほどの後遺症(体力

上げることになり、あなた自身やあなたの愛する人を一生苦しめることになるかもしれ

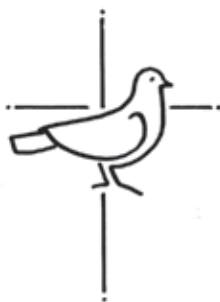
10月の教区関係教役者 逝去記念聖餐式

日時 2020年10月1日(木) 午前10:30
場所 神戸聖ミカエル大聖堂
司式 主教 小林 尚明
説教 司祭 瀬山 会治

※中止の場合がございます。恐れ入りますが、ご出席される方は、事前に教区事務所までお問合せ下さい。よろしくお願ひ致します。
教区事務所 TEL.078-351-5469

*10月の記念逝去教役者

Table with 4 columns: Date, Role, Name, and other details. Rows include dates from 1st to 31st and roles like 宣教師, 伝道師, 司祭, 執事, 主教.



(司祭 浪花朋久・広報部)